



ナマステ！

ネパール・ミカの会
理事長 齋藤 謹也



本年も宜しくお願い致します。
ネパールでは政情不安もあり、すっかり冬の時代にはいったようにみえますが、この時期だからこそ少しでも暖かな風を日本から送りたいと願っています。(1月例会で冬物衣類を送付することを決めました)

私達のネパール支援での柱であるラマさんにとっても、学校運営を含めて厳しい状況があると察せられますが、会員の皆様もどうかあたたかい眼ではげましてあげてください。

でも、これはこちらの勝手な思いこみかもしれません。ラマ氏は元気で、ネパールの人々の心もあたたかく元気なのかと思います。(情報不足が勝手な思い込みを生みます)思い込みをやめて、私達ネパール・ミカの会としては足元をしっかりと見つめてやっていきましょう。躊躇していた「第8次ネパール教育支援の旅」を3月7日-14日に実行すること決めました。図書や備品援助など事業を着実にすすめていきましょう。

植草さんの寄付金を基にしたのコミュニティーセンター建設も、この旅で本格的に一步をすすめたかと考えています。年末年始ルンビニ地方で寒波があり、何人かの人々が死亡したとの報もあつたりしていますが、何かをせねばという思いはあってもどう形にできるか行き詰まっています。いろいろなアイデアを教えてください。

「ゆっくりと、ゆっくりと」「でも着実に前に進もう」がモットーのわが会です。皆様と力を合わせながら、本年も一步を歩みだしましょう。

平成15年度中間調査報告書2

理事 青沼義信

11/5(水)

羽田から関空の飛行は定刻だったが、関空からカトマンドゥは、関空で5時間半、寄港地上海で30分余の出発遅れにより、到着が6時間半遅れの6日0時40分となり、特に齋藤理事長風邪による体調不良での述べ20時間余は辛い旅だった。

従ってカトマンドゥ空港を出たのが6日午前2時近くになっが、ラマさんは空港近辺の検問が厳しく、一度空港を出ると再検問を受けねばならず面倒なので、到着予定の18時頃から空港を出ずに待っていたとのことで、ご苦労をかけてしまった。

11/6(木)

在ネパール日本大使館訪問は、14時半にアポをとったとのことで、それまでの間さがみはら国際交流フェスティバルでカトマンドゥ事務所訪問を約していたネパール教育支援の会NESEAカトマンドゥ事務所に神保映氏を訪問し事業内容などを聞いた。

カトマンドゥで女性自立の為の職業訓練所を開設、現在20名の女性が在籍し訓練を受けているとのことである。

カトマンドゥ郊外で農家の収入増を図る為、ヤギやブタの貸し出しをし生産させ成果を上げている。

現在リゾートロッジを建設中で2,005年にオープン予定。
以上三つが事業の柱とのことであった。

サルビンダ氏宅訪問--朝ホテルに訪ねて来られ、昼食の招待を受け訪問した。

日本大使館訪問

さがみはら国際交流ラウンジ運営委員鯉田氏から紹介していただいた鈴木かずみ一泉公使にお会いできた。会の活動内容を説明の後、マオイストの動静を聞いたが、ダサイン祭りで休戦状態の間に国内全土的な活動をしており、ダサイン祭り以前より治安状況は悪化しているようだ。特に勢力は南下しており、トレッキング中の人々から寄付と称して金を取っているとの情報をよく聞く、とのことでした。お話中に公使が大坂剛書記官と呼ばれ、9月現在の「海外渡航関連情報」(頂戴しました)を持ってこさせ、治安状況を地域別に説明していただいたが、ルンビニ(カピラパストウ郡)は白(ほとんど危険なし)だが、タンセン(パルバ郡)やバイラウ(ルパンディヒ郡)は黄(十分な注意を要する)ということだった。しかし白といえども電話局の破壊、村役場への放火などがあるので安心できず、特に幹線道から入った部落などで被害が多く見られているとも云われており、十分注意して行動をしてほしいとのことであった。

11/7(金)

日本山妙法寺佐藤上人訪問

マオイストの活動

1ヶ月前までがひどくルンビニ公園内の電話局の爆破や、マズワニ村役場への放火、あるホテルでは100万円を要求されたこともあったとの事。
ダサイン祭り後活動を再開したようだが、ルンビニ地区は落ち着いている。しかし外国人でRs1,000を要求された例もあり充分注意をしてもらいたいとの事であった。

学校支援について助言を頂いた

- ・ 物的支援も必要だが人間教育が非常に必要に感じている。
- ・ 校長は支援物を生徒に与えず、換金して酒食に使ったりしている。これは生徒は勿論、他の先生達も知っているが校長の政治的絡みなどもあり見てみぬふりをしている。支援物は直接子ども達に与えてもらいたい。

- ・ 先生を教育する事も必要だが、親の教育も必要と思う。

これらは会の活動方針と合致しているので心強かったが、ラマさんは先生達に会った感触では、我々にはタンセン行きに賛成しているが、本音は家から離れてタンセンには行きたくないようだとの事で、今後の課題となりそう。

パダリア小学校視察

校長は前マズワニ小学校の校長・先生4名・生徒数150人
視察に訪れ見ていると校長が来たので、話を聞いた。

- ・ 4教室の内左側2教室は屋根にレンガを使っているようで厚さが薄く、雨漏りがする。
- ・ 右側の2教室は神坂氏の援助で建築したが、建築半ばで氏が逝去され塗装なしの状態である。

以上2点の修理の請願があり、帰国後会に諮ってみるとの回答をした。

『ブッダ マヤ ガーデンス ホテル リゾート』に立ち寄る

法華ホテルは、法華グループから離れて一層厳しい経営をしているようで、次候補ホテルとして立ち寄ってみた。外見も部屋もきれいで宿泊費は法華ホテルより安いようで、次候補として良いのではな
いかと思われた。

マズワニ小学校訪問

校長不在だったが各教室訪問、理事長用意のエンピツ消しゴム等を渡す。
田んぼ埋立地のための地盤の悪さで建物に亀裂が出来、床と壁の間に段差が出来ていた。
いずれ修理を要すると思われる。

名簿より生徒数を調査：

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	合計
男	44	38	40	40	37	199
女	30	33	32	23	16	134
計	74	71	72	63	53	333

マズワニ中学校訪問

マズワニ小学校とともに塗装と多少の修繕を考慮すべきと思われた。
各教室を訪問したが、特に3年生の成長はとても頼もしく思えた。

現在の生徒数

	1年生	2年生	3年生	合計
男	35	27	25	87
女	26	19	19	64
計	61	46	44	151

ルンビニ小学校訪問

昨年まで3年生までだったが今年から4年生までの授業となった。

各教室を訪問エンピツ消しゴムをプレゼントしたが、特に1年生は相変わらず騒然とした状態で、先生を教育することが最優先かと思われる。

現在の生徒数

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
男	85	15	22	14	136
女	20	17	12	10	59
計	105	32	34	24	195

シリ・シリ・ラム小学校訪問

建設の中学校用校舎は、まだ認可されていない為使用していなかった

各教室訪問し交流

現在の生徒数

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	合計
男	52	31	31	57	27	198
女	20	11	6	9	5	51
計	72	42	37	66	32	249

マズワニ村役場・医療保健センター・TERAKOYAを視察

村長に連絡していなかったのでは会えないかと思っていたが、葬儀で近くにいる事が分り会うことが出来た。ズワニ村役場は約2ヶ月まえのマオイスト放火により玄関側の一室が焼かれ痛々しい状態であった。従って役場は全面的に休業している。

修繕に5～6万かかるが修理して使う事にしているとのことであった。

シュブワ村役場、プタバハル村役場と同時刻に放火されているので、計画的に組織的に行なわれたようである。又、マオイストはこれらの行動で恐怖心を与え、カピラ城付近では給料の内1日分を上納するように強要しているとの情報もあるとの事であった。

コミュニティセンター建設について村長は非常に素晴らしいアイデアだがユネスコが保健センターの奥に学校へ行っていない子どもや年長者に対し野菜作りなどを指導する『World Terakoya』と称する約32坪の建物を建築しており、その上約11坪の郵便局の建築も始まっているので、この場所にコミュニティセンター建設は無理ではないかとの意向のようで、我々も無理と判断し建設場所は改めて検討する事としたい。

又、マズワニ村村長に小学生・中学生の入学率を聞いたところ

小学生入学率・・・30～40% 中学生入学率・・・約10%

との事で入学率のあまりの低さに何とかならないものかと強く感じた。

シリ・ジャナ・ジョーティ小学校建設について

カピラ城に近く危険なため視察を取り止めた。又、場所的に会で決めたエリアを大きく超えるため建設は見送るべきと思われた。

シリ・アマリ小学校視察

ルンビニアダルサ村(ルンビニ公園南部で公園まで約20分)にあり、理事長及び校長ブリツパン・チャウダリ等と会う。校舎は1教室で1年から5年生まで3人の教師により授業をしているが、多くは校庭にある大きな木の下での授業をしており、雨・風の日は授業が出来ず他の学校に行く事もある。(現状見取り図別紙)

5教室1職員室を希望していたが、取敢えず3教室1職員室でも可である。

現在の生徒数(入学率は約30%)

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	合計
男	32	13	14	7	7	73
女	26	14	3	6	6	55
計	58	27	17	13	13	128

ルンビニ公園南部なので会のエリアから一寸ずれるが、現状を見ると校舎建設候補校として検討したいと思った学校である。

11/8(土)

シリ・アジアリ小学校視察

休日のため視察のみの積りで訪問したが、たまたま先生が居られ生徒数を帳簿から見てもらった。

現在の生徒数

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	合計
男	44	48	51	27	24	194
女	22	27	14	5	11	79
計	66	75	65	32	35	273

シリ・スندی小学校、シリ・グルワニマイ小学校、ハジエトウラ八校は休日休校で見るだけにした。その際スندی小学校校庭の一部をコミュニティセンター建設候補地となり得ると確認したが、校長に会えずラマさんに校長意向を打診してもらった。その結果の連絡で検討したい。

シリ・ギャノダイ小学校視察

バハルワン村・アナソク校長

校舎建設候補校として視察したが、現在アジア銀行資金で3教室を建設中で、今のところ候補校にはならないと思われる。

ルンピニ～タンセン車にて移動。途中、プトワールやタンセンに入る手前で銃を構えた兵士による検問があり、緊張した雰囲気を感じた。

タンセンレストランにて学校長・教授など10名と会食懇談

出席者は次の通り

サンブ ムナヌカミ	トリブヴァン大学	学長
チョウレ ショル シャルマ	"	前学長
ラメショル バジマヤ	文系教授	
ラメス ナラヤナ ティリパティ	理系部長	
ジバヌタパ	理系教授	
ケイサブ ラジュ シャルマ	ミレニアム 10 + 2	
クリシュナ コイララ	"	
ディレンダラ シュレスタ	シリナガル 10 + 2	校長
サットラ ラジュ シャキヤ	"	理事長
ミヌ バハドル ケシ	セン小学校校長	
齋藤 謹也, 青沼 義信, ヌルブ ラマ,		

トリブヴァン大学タンセン校は9月に学長交代があったとの挨拶の後、学長より大学創立50周年記念誌を頂いた。そのなかに学校に対する寄付についての箇所があり、ミカの会からの寄付内容が専門書から顕微鏡・実験器具・パソコンなど詳細に書かれており、それは他の寄付先と比べダントツで多く、学長も非常に感謝していると謝意を述べていた。

今年度の支援図書等の要望リストを例年通りラマさんあての提出を要請。

トリブヴァン大学学長よりゼネレーター(出力5500W~6000W)の支援要請があった。

必要理由:電力不足により照明の電気が不安定で度々停電があり、特に最近では学生の増加により午前6時から午後7時まで授業をしており、朝夕の授業や試験時の停電で学業に支障をきたしている。安定した照明を確保するためのゼネレーターを是非導入したい。

そのためには支援図書予算の2~3年分を充ててもらってもよいので是非援助願いたいとの事であった。その後要望書がホテルに届けられた。

*カトマンドゥで価格調査したところホンダ製で30万円であった。

帰国後会に諮り是非を連絡することにした。

セン小学校校長からは来年6月定年退職するが、念願だった講堂の建設をなんとかしたい、と支援要請をされたが聞くだけにとどめた。

セン小学校校長のルンピニ教員研修受入の件は協力体制を再確認。

タンセンの宿泊場所について、定宿のスリナガルホテルは場所的に淋しくマオイストに対する不安が全く無いとは思えず、街の中にしたほうが安心感があるとのラマさんの意見から、街中のホワイトレイクホテルに宿泊した。

ホテルとしては、スリナガルホテルより一寸劣るようで、シャワー・トイレの水の出が悪く(3階のせいか?)シャワーは使えなかった。

夜中12時頃、ホテルの前を怒鳴るような声とともに車が発進し、5分ぐらいして銃声のような爆発音が1回、2・3分して連続3発の銃声が聞こえ、一時緊張したがその後何の動きも無く空耳かと思ったくらいだった。翌日街中に何の反応も無く、触らぬ神に祟りなしかと感じられた。

11/9(日)

8時ポカラに向けて出発したが、モホン女子校の前で昨日会えなかった校長と会うことが出来た。

モホン女子校校長に支援要請内容のリスト提示について話をした後、ルンビニ教員研修受入の件について協力体制を再確認した。

ポカラへ向かう途中で、以前坂副理事長が個人的な支援でトイレを建てた学校に立ち寄ったが、管理する人の家が傍にある為非常に綺麗に使っていたが、当たり前のことなのに、意外な！という目をもって見てしまった。

ポカラまでの間にも検問所が3ヶ所あり、銃を向けられているので我々の行動によっては発砲されかねないような気がし、緊張してしまった。

11/10(月)

ポカラ発9時30分予定が11時20分発になったが空路カトマンドゥへ・・・

ホテルチェックイン後、ラマさんが校長を務めるカトマンドゥ日本語学校を訪問。モティさんの授業振りを拝見、近々等級認定試験があるとの事で生徒の皆さん頑張っていました。

マオイストの問題で日本人観光客の減少が甚だしく、日本語の必要性が少なくなってきた事もあり、日本語学校に学ぶ生徒も少なくなり、現在では97名の生徒が授業を受けているだけで、このままだと経営にも差し支えるとラマさんは心配していました。

11/11(火)

パドワマ・カニヤ女子校を訪問

理事長、校長を交えて懇談したが、治安対策で国家財政が相当厳しくなっているようで、学校維持費はもとより教員の給料も2ヶ月間遅滞しているとの事であった。

支援品をリストアップしラマさん宛要請してもらいたい旨を話したところ、最近生徒の数学の成績が低下しているの、学力向上のため学校独自で数学の教科書を1000部(Rs40,000~Rs50,000)つくりたいが、資金不足で出来かねているので援助願いたいとの要請があり帰国後の検討を約した。

その他「雨漏りの修繕」「講堂の建設」「パソコンの導入」「ミシンの修理」などを話されたが聞くだけに止めた。図書室に案内されたが、ミカの会寄贈の図書及び書棚が17台にもなったことに理事長、校長共に感謝の意を表されていた。

学校訪問を終えパドワマ・カニヤ女子校奨学生12名(先生1名)と共に昼食と懇談をした。

予定の行程を終了し夕食後23時45分発の飛行機に乗るべくカトマンドウ空港へ向かった。

送ってくれたラマさんと別れ空港へ入ったもののデリーからの飛行機が遅れ、離陸は4時間40分遅れの12日4時25分になってしまった。

今回の中間調査は「マオイストに関連しての行動の制限」「休日休校による調査できなかった部分」「ユネスコによる校舎建設」などにより調査の上でも変更を余儀なくされる面があったが、なんとか無事に終える事が出来た。

このような難しい時にもめげずに一緒に行動してくれたラマさんに心から感謝したい。



NPO法人ネパール・ミカの会定期総会

第2回定期総会が下記のように開催されます

日時：平成16年5月15日(土)3時より

会場：町田市民ホール第3会議室

総会終了後懇親会を予定しております。

第8次「ネパール教育支援の旅」のお知らせ

第8次「ネパール教育支援の旅」を2004年3月7日～14日に実施します。
2004年度のメインの支援事業であるコミュニティーセンターの建設及び教員研修制度は諸般の事情により当初の計画は遅滞していますが、実現に向けての現地との調整を計ると共に、次期校舍建設候補校の視察選定、合同図書機材贈呈式、支援校との交流会を予定しています。

スケジュールに余裕を持ち、タンセン2泊、ルンビニ2泊とし、ナガルコットの丘からのヒマラヤの峰々を楽しみます。

ミカの会の地道で着実な活動の成果を目の当りにする感動と感激の旅に多数皆さんの参加を期待します。

第8次「ネパール教育支援の旅」案

期 間	2004年3月7日(日)～3月14日(日)	8日間
費 用	一人当り概算 218,000円 内訳 羽田 カトマンドゥ 128,000円 現地旅費・滞在費 90,000円 ビザ取得・海外傷害保険代含まず	
申込み	申込み期限 2月10日(火) 事務局 和田理事(T/F 042 791 0148)又は 大谷まで(T/F 042 726 1762)	
旅 程	3 / 7 羽田～関空～カトマンドゥ 3 / 8 カトマンドゥ～パイラワ～タンセン 3 / 9 図書・機材合同贈呈式、教員研修打合せ 3 / 10 タンセン～ルンビニ コミュニティC建設地・次期校舍建設候補校視察 3 / 11 スンデー小学校等視察、マズワニ中学校交流会他 3 / 12 パイラワ～カトマンドゥ～ナガルコット カニヤ女子校交流会 3 / 13 ナガルコット～カトマンドゥ～ 日本語学校視察、観光、ショッピング 3 / 14 ～関空～羽田 旅程内容は参加者、ラマ氏の要望を検討し最終決定とします。	

チャリティ・イベント

築田寺文化講座

主催：NPO法人ネパール・ミカの会

密教舞踊とカジャのつどい

ネパールを目と鼻と口で丸ごと味わって見ませんか！！

昨年1月に築田寺文化講座で好評を博した舞踊家・岡本有子さんに再び密教舞踊（チャリア）を舞っていただくことになりました。お寺の本堂でのチャリアは神秘的な雰囲気を感じ出します。今回は中休みにカジャ（おやつ）としてネパールの家庭料理（野菜カレーとパン）とチャ（ミルクティ）を味わっていただきます。そのあとワークショップとして、チャリア独特の手のかたち、足のかたちなど岡本さんに指導していただきます。ふるってご参加ください。

日 時： 2月22日（日） 午後2時 - 3時30分

場 所： 築田寺 本堂・・・町田駅より下山崎行または小山田桜台行
忠生2丁目下車 Tel.042-791-0602

会 費： 3000円（カレー・チャ付き）

申し込み 大谷（042-726-1762） 和田（042-791-0148） まで

ネパ - ル・ミカの会 入会の記

土田 嘉武

私は昨年(2019年)の10月にネパ - ル・ミカの会(以下ミカの会と表記)に入会しました。今回は私のネパ - ルに対する思いとミカの会に入会する経過と入会後の感想について記したいと思います。

私は20代の頃から山系の遊び人でスキ - 、山の温泉、トレッキング、旅行等を趣味としてきました。山行きはハヶ岳や安達太良山、那須茶臼岳、岩菅山など標高2000m前後の山に登りましたが登山とまでは呼ばず、登山とトレッキングの中間的な山行きでした。そんなわけです。雪のある山岳写真を見たりスキ - 仲間の自慢話でスイスのスキ - ツアの話や、テレビの放映でヨ - ロッパアルプスやヒマラヤの映像を見るたびに一度は自分の目で見てみたいとあこがれていました。

40代の頃だったと思いますが、会社の仲間の何人かが山の会の創立記念イベントでネパ - ルのエベレストを見に、トレッキングに行った話を聞いて羨ましく思いました。その後図書館でヨ - ロッパアルプスやヒマラヤの山岳写真を見るたびに一度は現地を訪れて自分の目でその素晴らしい景観を確かめたいと思うようになりました。特にランタン谷は世界一美しい谷だと紹介されていた記事を見てからは、ネパ - ルの情報を具体的に集めるようになりました。

ヨ - ロッパアルプスは結婚25周年の記念にスイスアルプス、ベルナ オ バラント地方とツェルマット地方を旅して、ほんの一部ではありますが柔かい粉雪の上でのスキ - とトレッキングの真似事を体験できました。そして昨年(2019年)の1月、60歳の誕生日に勤務先を定年で退職したのを機会にネパ - ルの情報収集はより具体的に、新聞記事を参考に各地のネパ - ルボランティアの報告会を2回聞きに行きました。ミカの会については勤務先のデータベースのフォーラムを見ていたので事務局が町田に有るのは知っていました。(ボランティア活動で内容のある優秀団体を応援している団体がフォーラムに掲示される)昨年(2019年)の6月、ウオ - キングの帰りに事務局の住所を頼り、築田寺にたどり着いたのですが事務局の場所が分からず、会長である斉藤さんの奥様に聞くことになり、(奥様だったのかな)こもれび堂の場所とミカの会の会合が第3土曜日の3時から、行われることを知りました。後日、斉藤さんに電話で会合に参加したい旨を連絡したところ快く了承して頂きほっとしました。そして、8月の会合に初めて参加させていただき、9月の栄通りフェスタの出店に顔を出してメンバーの方々の活躍を見ることが出来ました。勤務先の先輩である大谷さんが事務局長だったことも心強く感じましたので、10月から正式にミカの会に入会しました。その後12月、今年の1月と会合に参加し少しずつミカの会の雰囲気になじんで来ました。会合に参加して私が感じたことは会合の場の雰囲気に、かなり活気があるなと感じたことです。検討テーマに対して幅の広い意見が出され、まとめるのに少し時間が掛かるようです。又、そうゆう状況の中で隣同士で話し合うメンバーの方もいますが、この事は悪いことでは無いように感じます。それは、メンバーの皆さんがその時生き生きとして話をしているからです。会社の会議とは違うから、メンバーの皆さんが楽しくなければ意味が無いと感じました。

同じことが出店の報告の中でも感じられます。単に儀礼的な報告ではなく言葉のはじめに苦労した、楽しかったと言う事が多く出てきます。又、ネパ - ルの現地の話の中で、ルンビニが、ナガルコットがと、言うときも生き生きとして話をしています。そして、少しでも綺麗な所、美しい景色、安全な場所などを模索し初めての参加者や何度も参加しているメンバーに対する気配りも感じられます。以上のようなことを新加入の私は会合の中から受け取りました、今後少しずつ会合のためにお役立ち(ゲストや車の無い人の送り迎え、備品の整理整頓、安い飲み物などの買出し 相模市場は、力仕事 出店の準備、情報収集 安価なエアチケット)出来るようにしたいと思いますので宜しくお願いいたします。

ラマさん Nepal in Japan で頑張る！

木幡 久美子

クサン・ラマ・シェルパ(正しくはラマ・クサン・シェルパ)のラマさんは、ラマ僧のラマさんです。ミカの会のヌルブラマさんのラマは民族のラマでタマン族にも、シェルパ族にも他の民族にもラマを名乗る人達がいるのだそうです。よくネパール60民族と聞きますが、それだけでなく、もっと複雑なようです。

クサンさんは、私が第7次教育支援の旅の後、ホームステイさせてもらった家のテンディー・シェルパのおじさんに当たる人です。テンディーが仮のあるじをしている家のあるじがクサンです。ラマさんクサンさんと一緒に暮らしている、いとこのザンブさんは、ヌルブラマさんとお母さんどうしが姉妹ですからおじいさんが同じ人ということです。

昨年ミカの会の総会の為に来日したラムさんが、たまたまその時に持っていたザンプさんの写真を見て、「僕の良く知っている人だ！できれば会いたい」と言いました。ザンプさんはナガルコットで撮ったヌルブさんの写真を見てはわからないと言うばかり。ひとまわり年のはなれたいところが子どもから30才の青年に成長しているのですから、わからなくても不思議ではありません。でもヌルブさんにとっては、子どもの頃田舎で遊んでもらったお兄ちゃんだったのです。

ヌルブさんは何度も、会いたいけれども時間が無いとスケジュール表を見せてくれました。そして私の電話番号も教えてと言って別れました。

カトマンドゥでは会う機会が無いという二人を私は会わせて上げたいと思いました。今村さんに電話して何とか町田駅前の横断歩道を渡ったところで二人を会わせることができました。あの夜天空の舞いで50分ほどの時間二人だけで17-18年ぶりのお話ができそうです。ヌルブさんからザンプさんにもう一度会いたいけれども時間が無いと河口湖から電話があったそうです。

さて、クサンさんの話に戻ります。ネパールソングートに親しむ会の設立総会にザンプさんとクサンさんを誘い、会員になってもらいました。ネパール・イン・ジャパンのダンサーも誘いましたら、恥ずかしいよと言いながらOKしてくれました。その後ザンプさんの奥さんが来日し、彼女が病気で参加出来なくなりました。（これから日本で手術の予定）

クサンさんはネパールでは、一度も踊りはやったことがないから全然自信が無いと言いながら、時間がなくなると仕事を休んでまで練習に励んでいます。ネパール人も日本人と同じように色々な人がいますが、私がお付き合いしているネパール人はみな真面目な人達ばかりです。お酒がはいると色々変わり、ちょっと困ることもありますが、それも日本人にもありますから。ネパール・イン・ジャパンの連絡網がクサンさんになかなか伝わりにくく、私のところにクサンさんから電話が入ります。出番が4つにも増えてしまって頭をかかえながら頑張っているクサンさんからタベも電話がありました。「クサンさん！踊っている人達もスタッフも仕事しながら参加できる時間で参加しているのだから、仕事は休まないで下さいネ！でないと首になったら困りますよ」と話すと「首になったらネパールに帰るよ」と笑っています。スタッフもダンサーも、もうヶ月先のことだったらどんなに良かったかと思いますが、会場の都合で仕方ありません。それでも「やろう！」という皆のパワーで、本当にみんな頑張っています。（平成16年1月22日記）

「支援活動あれこれ」

NPOを取得して間もなく1年が経とうとしています。NPOの資格を取ったことにより社会的に認知度が増したのか、会の活動を紹介する機会や講演依頼、またボランティア活動についての講師の用意があるかなどのアンケートが各団体から多く寄せられています。会員のみなさまの講師としての積極的参画を期待します。

活動報告

- 11月25日 相模原市大野台中学校 2年生 110名対象
活動状況及びスライド、写真の紹介 青沼理事、大谷事務局長
- 12月05日 相模原市大野台中学校 1年生 108名対象
活動状況及びスライド、写真の紹介 青沼理事、大谷事務局長
- 1月19日 町田ボランティア連絡協議会代表者会議
活動近況報告 齋藤理事長、和田理事
- 1月25日 ヘルツの会全体研修会（相模原市校長、指導教員の会）85名
会の沿革、ネパールプロフィール、活動状況、スライド 齋藤理事長、青沼理事、大谷事務局長
- 1月30日 町田ボランティアセンターシニアボランティア講座
入会動機、会の特色、活動状況 今村副理事長

公式ホームページ <http://www.jedi.co.jp/mika>

『最新情報や案内がご覧になれます。会報もカラーで！』

メールアドレスの登録は済みましたか？

【編集後記】

遅くなりましたが新春号発行です。原稿やスペースの関係で（制作者の都合？）遅れました。電子化のお陰で作業は随分と楽になりました。電子メールの100%普及を目指して啓蒙活動を行っていますので連絡のコストダウンとスピード化ご協力を！！

次号はニューリアルした会報を予定しております。ネパールに限らず会員の皆様の素晴らしい活動、体験、紀行文を掲載していく所存です。応援して下さい S.K